

# 西大和つうしん

2021年9・10月号

No.463



幾つもの奇岩の重ね岩がそびえ立つ竜ヶ岳表道登山道を下る《2021.7.18》

奈良県勤労者山岳連盟

西大和山の会

# 西大和つうしん

第463号（2021年9・10月号）

## 【目次】

10月度山行計画	2
9・10月度カレンダー	3
山行・行事等参加メモ	4
山行報告	
・例会山行 《6/26》 大峰山脈 大普賢岳～七曜岳周回（野路）	5
・例会山行 《7/4》 矢田丘陵 松尾山～矢田山（杉村）	5
・自主山行 《7/16-18》 南アルプス 鳳凰三山（永井・橋本）	6
・例会山行 《7/18》 鈴鹿山脈 竜ヶ岳（藤井）	8
・自主山行 《8/1-5》 南アルプス 塩見岳～北岳（岩田・橋本）	9

### 本会の新型コロナウイルス対応について（HPに掲載したお知らせ文より）

本会では、新型コロナウイルス感染拡大への対応として、昨年4月をピークとする第一波に対して4月と5月の例会山行を全面中止しました。その後、感染が一定の収束を見せ、緊急事態宣言が解除されたことから、6月後半から例会山行を再開しました。8月をピークとする第二波は、大都市の若者中心で重症化率は低く、2020年内は例会山行を継続してきました。

2021年に入り、第三波の感染拡大が見られたことから年始から例会山行を中止としましたが、全国的にも新規感染者が減少に転じたことから、3月以降の山行再開に踏み切りました。しかし、この状況は長くは続かず、英国型変異ウイルスによる第四波を招きました。第四波は関西・首都圏だけでなく日本各地に広がりを見せ、各地で3度目の緊急事態宣言が発出されたことから、4月・5月の例会山行を中止しましたが、緊急事態宣言が一定の効果を見せ、特に関西圏において新規感染者は減少し、緊急事態宣言は6月20日に解除されたことから、6月20日以降の例会山行を再開しました。

7月に入ると、ワクチン接種も徐々に進んできたにも拘らず、20代、30代若者を中心として感染力の強いデルタ株による第五波の感染が急拡大してきました。オリンピックや夏休み等による人流拡大の影響で、全国の新規感染者数が第四波を上回り過去最多を更新する日々が続いております。

このような状況に鑑み、本会では8月以降の例会山行を9月末を目途に中止することとします。状況は日々変わりますので、これからも感染状況を注視しながら臨機応変に方針を決定して参ります。（7月29日）

## 10 月 度 山 行 計 画

～近畿の屋根、秋の高原の逍遥を楽しみましょう～

体験山行対象

### 例会山行1 台高山脈 《大台ヶ原・日出ヶ岳 1,695m》

【日 程】10月17日(日) (L亀高)

※ 参加者はリーダーまで申込み(10月3日締切り)

【集 合】上牧町役場前駐車場 6:30

【コース】大台ヶ原駐車場(9:15)～日出ヶ岳(10:15)～正木ヶ原～牛石ヶ原～大蛇崕(13:00)～シオカラ谷～駐車場(15:00)

※ 歩行時間：約4時間(休憩含まず)

※ 本山行は、体験山行の対象です。お知り合いや友人で山行に興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、積極的に誘ってください。

～大峰の秀峰釈迦ヶ岳に登り、大日岳の岩峰にチャレンジしよう!!～

### 例会山行2 大峰山脈 《釈迦ヶ岳 1,800m》

【日 程】10月24日(日) (L杉森)

※ 参加者はリーダーまで申込み(10月10日締切り)

【集 合】上牧町役場前駐車場 5:30

【コース】太尾登山口～(1h10)～古田の森～(50)～釈迦ヶ岳～(35)～深仙の宿～(20)～大日岳～(20)～深仙の宿～(30)～千丈平～(60)～太尾登山口

※ 歩行時間：約5時間(休憩含まず)

※ 歩行距離：約12km

～秋の里山と山村風景を楽しみましょう～

県連交流山行

### 例会山行1 奈良中部の山 《鳥見山 734m～竜王山 586m》

【日 程】10月31日(日) (L勝尾)

※ 参加者はリーダーまで申込み(10月17日締切り)

【集 合】近鉄榛原駅 8:00

【コース】近鉄榛原駅～鳥見山公園～鳥見山～貝ヶ平山～山神竜王山～芹井～瀧倉～奈良精工～笠荒神参道入口～笠そば処(WC)～竜王山参道入口～竜王山～崇神天皇陵～JR柳本駅(解散16:00)

※ 歩行時間：約6時間30分(休憩含まず)

※ 歩行距離：18.75km

# 西大和山の会 カレンダー

9月		10月		
1	水	1	金	
2	木	2	土	
3	金	3	日	
4	土	4	月	
5	日	5	火	県連理事会
6	月	6	水	
7	火	7	木	県連理事会
8	水	8	金	
9	木	9	土	
10	金	10	日	
11	土	11	月	
12	日	12	火	
13	月	13	水	
14	火	14	木	
15	水	15	金	
16	木	16	土	
17	金	17	日	体験山行・例会山行1《大台ヶ原》(亀高)
18	土	18	月	
19	日	19	火	
20	月	20	水	
21	火	21	木	
22	水	22	金	
23	木	23	土	西大和つうしん原稿締切
24	金	24	日	例会山行2《釈迦ヶ岳》(杉森)
25	土	25	月	
26	日	26	火	
27	月	27	水	
28	火	28	木	
29	水	29	金	
30	木	30	土	
		31	日	県連交流山行・例会山行1《鳥見山～竜王山》(勝尾)



## 山行報告

### 例会山行2 大峰山脈 大普賢岳 1,780m～七曜岳周回

【日 程】6月26日(土) 曇り

【参加者】L 野路・SL 島崎・橋本(3名)

【コース】和佐又駐車場(7:20)～和佐俣コル(7:50)～笹の窟(8:40)～大普賢岳(10:15/30)  
～国見岳(11:20/45)～七曜岳(12:20)～水簾滝(13:45/14:00)～底無し井戸(14:40)  
～和佐又コル(15:45)～駐車場(16:05)

台風の影響を受けて日曜日が雨予報だったため1日早めて例会を実施した。曇り空の中、以前の和佐又駐車場より300mほど下った所からスタート。大普賢岳までは、梯子の連続で厳しい登りであった。何度か登ったことのある大普賢岳だが、こんなに厳しかったかなぁ・・・と改めて思った。

大普賢岳から七曜岳も4峰ほどのアップダウンを繰り返す。七曜岳から無双洞までの激下り、木の根が無数に張り出し、気を配っての下山になる。無双洞で徒渉をして、またそこから300m以上の登り返し。鎖のついている岩場を登り、底無し井戸までは厳しい登りであったが、とても良い夏山山行の訓練になった。

七曜岳で雨がパラパラしたが、すぐに止んだ。最後までカッパを着ることもなく、涼しい中での山行となった。(記：野路政子)



\*\*\*\*\*

### 例会山行1 矢田丘陵 松尾山 315m～矢田山 340m

【日 程】7月4日(日) 小雨のち曇のち晴れ

【参加者】L 勝尾・SL 藤井・杉村・亀高・佐々木・玉野(6名)

【コース】JR 法隆寺駅(8:30)～南大門(9:05)～松尾寺(9:14/27)～登山口(9:30)～  
七曲分岐(10:05/09)～松尾山(10:46/50)～国見台(11:08/13)～矢田峠(11:49)～  
矢田山展望台(11:58/12:28)～小笹の辻(12:51/58)～檜の木峠(13:20)～  
南生駒駅(14:07)

法隆寺出発時は小雨模様だったが、南大門到着時には雨も上がり斑鳩を散策しながら松尾寺へ立ち寄った。厄年参りに来てからだいぶ日が経ったと感慨深い気持ちもカサブランカの香りでかき消されたかな。

松尾寺を出て、色鮮やかなアジサイ咲く道を松尾山登山口へ山らしい坂を上り出すとむし暑さを感じ汗も出るが、時折風が吹いて気持ちがいい。昔の雰囲気が残る七曲分岐にて休憩をとる。ここは小泉からの登りと重なり昔は馬車が通っていたらしい。暫く歩いていると大きなノコギリカミキリを見つけると、虫博士さん？が卵を持ってると大きなお腹を見せてくれた。別名ゴキブリカミキリと聞いてみんなで大笑い。



松尾山山頂手前の急坂を頑張って上ると場違いなNHKの鉄塔があった。その北側に展望なしの松尾山の案内。次の矢田山へ出発。滑りそうな急な坂道を降りると、松尾山では展望

がなかった代わりに国見展望台があった。斑鳩の町並みと遠くに山並みが見えるがかすんでいる。矢田山まではなだらかな道が続き子どもの森と案内板も、夏休みなど子供たちの歓声で賑やかなんでしょう。私たちも今回女性の参加者が多くて、話題に事欠かなく賑やかに山頂展望台に着く。山頂から5分ほど歩くと矢田山最高地点343.3mとあった。その後は天気も晴れて里山らしい木々の中、南生駒駅まで歩いた。残念ながら足湯はコロナ関係で閉鎖されていた。今回、久しぶりのTさん、Sさんの参加もあって実りある山行でした。(記：杉村好子)



\*\*\*\*\*

## 自主山行 南アルプス 鳳凰三山

(地藏岳 2,764m・観音岳 2,840.4m・薬師岳 2,780m)

【日程】7月16日(金)～18日(日)

【参加者】L橋本・SL上田・野路・杉森・永井・岩田(6名)

7月17日(土) 晴れ 青木鉱泉から地藏岳・観音岳・薬師岳へ

【J-タイム】青木鉱泉(4:27)～南精進ヶ滝(6:45)～白糸ノ滝(8:52)～五色ノ滝(9:42)～  
鳳凰小屋(10:46/11:06)～賽ノ河原(11:56/12:06)～地藏岳(12:38/54)～  
赤抜沢ノ頭(12:59/13:21)～観音岳(14:56/15:17)～薬師岳(15:45)～  
薬師岳小屋(15:55)

薄暗い中、ヘッドライトを付け青木鉱泉を出発。今日は長丁場だ。天気は快晴である。後で知ったが今日梅雨が晴れたらしい。一昨日まで雨が降っていて、ドンドコ沢が増水し登山

道がぬかるんでいないか心配していたが、大丈夫そうなので計画通りドンドコ沢に沿って行く。標高は青木鉱泉が1,095m、三山の中で一番高い観音岳が2,840mで、標高差は1,745mである。

三つの滝を見ることができた。五色ノ滝は一番落差が大きく、水量が増えていて迫力満点。続いて鳳凰小屋に着く。今日の行程の半分をやっと超えた。ここで昼食。水場もあり補給する。親切なお兄さんがいた。小屋を出ていよいよ地蔵岳へと向かう。しばらく行くと景色が変わり、白い砂地が広がっている。賽ノ河原だ。しかも傾斜がきついの

で登っても滑ってしまい歩が進まない。三歩進んで一歩下がるペースでエネルギーを相当使った。しかし、地蔵岳のシンボルであるオベリスクが目の前に現れると力が湧く。オベリスクに着くとその迫力に圧倒される。白砂の中から黒い鋭角の大岩が突き出し、抜けるような空の青色が背景を彩り素晴らしい眺めである。



赤抜沢ノ頭を越えると、次峰の観音岳までの稜線が見える。大きな谷の向こうには、日本で二番目に高い北岳が威風堂々と存在感を示している。若いハイカーが多い。なぜか我々の年代層はほとんど見かけない。今日は実に長い行程と思ったが、日帰りで青木鉱泉まで一周するハイカーもいて驚いた。

観音岳から薬師岳への縦走は、南アルプスの主要な山々を見ながらの爽やかな稜線歩きだ。薬師岳を越えると富士山が現れ、疲れが吹っ飛んだ。  
(記:永井章夫)

## 7月18日(日) 晴れ 薬師岳小屋から青木鉱泉へ

【J-タイム】薬師岳小屋(6:00)～薬師岳(6:15/30)～御座石(7:30)～中道登山道入口(11:15)～青木鉱泉(11:35)

小屋を出発し薬師岳頂上に戻り中道登山道から青木鉱泉に下山。薬師岳頂上では真っ青な空、雲海に浮かぶ美しい富士山、早朝にしか見ることのできない360度の大展望を満喫し、名残惜しい下山開始となった。

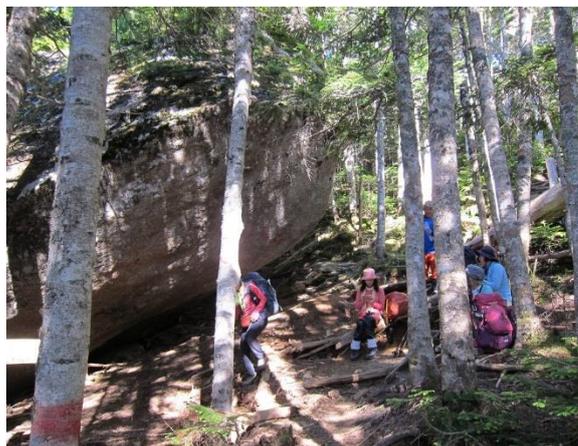
中道登山道は危険な箇所がないので、下山によく使用されるコースとの情報が多くある。下り始めは大きな岩や根っ子がむき出しの急坂だったので注意しながら下る。1時間ほどで登山道のシンボル御座石に着く。その後は樹林帯、笹原を下っていくが展望がほとんどなく思っていたより急坂が多かった。標高差約1,700m下る行程となり普段の山行では下らない距離なので、「まだかまだかなあ」と思いながら足を動かしていた。



中道登山道口からは林道歩きとなる。途中ドンドコ沢の川を渡渉して青木鉱泉に行ける近道があるのだが川の流れる音が大きく聞こえ、長雨の為増水しているようなので大事を取って最後まで林道歩きをしたので大変疲れた。到着後すぐに青木鉱泉で入浴したので元気を取り戻せた。

鳳凰三山は過去に2回退会された先輩が計画され、昨年は初めて自分で計画したがすべて天候が悪く中止となっていた。4度目の挑戦、今年も不安定な天候が続き心配していたが、山行当日は最高の天気の中実行できた。行程はとてもハードだったが、360度の壮大な展望が疲れを吹っ飛ばしてくれたように思う。思い出に残る山登りとなりメンバー皆様に感謝の気持ちです。

(記：橋本紀子)



\*\*\*\*\*

## 例会山行2 鈴鹿山脈 竜ヶ岳 1,099m

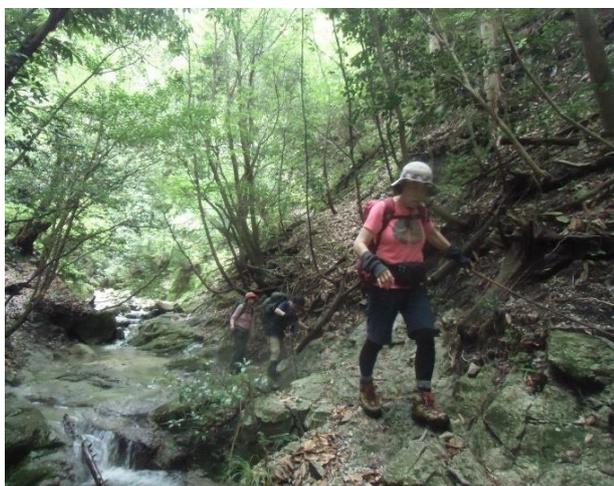
【日程】7月18日(日)曇り

【参加者】L藤井・島崎・亀高・杉村(4名)

【コースタイム】宇賀溪駐車場(8:30)～金山尾根登山口(9:05)～遠足尾根分岐(11:05)～竜ヶ岳(11:35/45)～重ね岩(12:10/30)～石樽峠(13:05)～長尾滝(14:00)～宇賀溪駐車場(15:35)

近畿地方は梅雨も明けたというのに、大峰方面は降水確率が70%になっていたので急遽鈴鹿の竜ヶ岳に変更した。

こちらあまりすっきりしない天候で、登山口まで車で向かう途中も時折小雨がぱらついていた。宇賀溪駐車場はすでに満杯状態になっていた。登山者ばかりではなく河原でテントを張って遊ぶ家族連れも多いようだ。



金山尾根の登山口から岩混じりの急登が始まる。時折晴れ間も覗くがどんより曇っていて、木立に濃い霧の立ち込める様子は幽玄の世界とも言えなくはない。山頂付近は笹原が広がり大展望が望めるはずだったが、すっぱり厚い雲と霧に覆われていて、人の姿も見失いそうになる。おまけに風も吹いていた。竜ヶ岳と書かれた山頂の標識の裏に珍しいミヤマクワガタの

雄をわが会の昆虫博士が発見！一面の笹原で高い木も無いのにどこからか飛んできたようだ。空のペットボトルに入れて持ち帰る。お孫さんに見せるそうだ。

風が強いので早々に石樽峠に向かって下山する。途中にいくつも石が重なった奇岩の重ね石がそびえ立っている。風を避けてここで昼食タイム。石樽峠まで下ると大きな捕虫網を持った人に何人も出会った。珍しいミドリシジミ（チョウ）を探しに来たとのこと。いろんな趣味の人がいるものだ。車道を少し歩き沢に入る。岩が濡れていて滑りやすい。水量が増して大迫力の長尾滝、五階滝を見て駐車場まで戻った。何とか雨には合わず変化に富んだ鈴鹿の山を楽しんだ。  
(記：藤井益子)

\*\*\*\*\*

## 自主山行 南アルプス 塩見岳～北岳 (塩見岳 3,052m～間ノ岳 3,190m～北岳 3,193m)

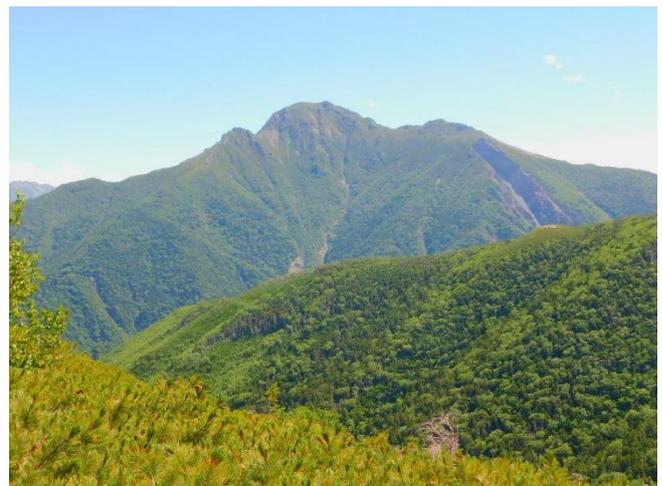
【日 程】8月1日(日)～5日(木)

【参加者】L野路・SL島崎・橋本・杉森・永井・岩田(6名)

### 8月2日(月) 晴れ 赤嶺館から塩見小屋へ

【J-タイム】鳥倉登山口(6:00)～三伏峠(9:33)～本谷山(10:57)～塩見小屋(13:32)

前泊した宿よりジャンボタクシーでゲートまで行く。そこからアスファルト道を50分歩く。南アルプスに入るにはアクセスがあまり良くないようだ。鳥倉登山口よりひたすら上りが続く。道案内もしっかりしていた。後半、細い丸太の栈道があり慎重に行く。本谷山を含めアップダウンを繰り返しながらのルートで、三伏山から兜型の塩見岳の稜線が見えた時は感動した。段々近くなる山容に見とれ、長い縦走の始まり、恐れと頑張ろうという気持ちが半々だった。午後から心配した雷雨にも合わず無事塩見小屋に着いた。既に山々は雲の中だったが雲が切れた時の風景は格別だった。こじんまりした小屋で、携帯トイレということで初めての経験をした。北岳迄行くとなると、びっくりされたり、うらやましがられたり大抵は塩見岳へのピストンで登る人が多いようだ。  
(記：岩田礼子)



### 8月3日(火) 霧雨のち曇 塩見小屋から農鳥小屋へ

【J-タイム】塩見小屋(6:10)～塩見岳西峰(7:31)～北荒川岳(9:56)～新蛇抜山(11:19)～安倍荒倉岳(12:39)～熊の平小屋(13:12)～井川越(13:44)～農鳥小屋(17:05)

昨夜はひどい風で朝起きると外は雨、出発を遅らせることになった。霧雨の中を出発し、岩稜帯を行き落石させない様注意した。塩見岳に登頂したが、何にも見えなかった。そうこうしているうちに霧も晴れ、しばらく気持ちの良い稜線歩きを楽しんだ。樹林帯に入り歩きやすい道だった。長く感じ精神的に疲れたが、シラビソ、ダケカンバ、苔類などの南アルプスの縁に癒された。熊ノ平小屋で水を補給し生き返る。この小屋が休業だったことが悔やまれる。後半の井川越のジグザグの上りと三国平を越えての長い岩場歩き、あの稜線に出れば間もなく小屋と思いきや、下って急登の



農鳥沢を見た時は愕然とした。最後の力を振り絞り農鳥小屋に着いた時はホッとした。とても長い一日だった。

この小屋では昔ながらのトイレと、到着が遅かったので「no good です」と名物山おやじの洗礼を受けた。メンバーの想いは悲喜こもごも、早めに食事を済ませせというか済まされ、電気も 19:00 に消灯となった、というか消された。だが夕日に照らされ、赤くなる富士山と目の前の農鳥岳を見ることができ、しんどかったけれどここまで来ることができ良かったと思った。明日は晴れそうだと思いながら疲れてぐっすり眠ることができた。  
(記：岩田礼子)



## 8月4日(水) 晴れ 農鳥小屋から北岳肩ノ小屋へ

【ｺｰｽﾀｲﾑ】 農鳥小屋(5:05)～間ノ岳(7:20/50)～中白峰山(9:20/35)～北岳山荘(10:10/50)～北岳(12:40/50)～北岳肩ノ小屋(13:30)

東の空が朝焼けに染まり始め、富士山がゆったり夜明けを待っている様を農鳥小屋前で見ると、ほんとに素晴らしいシチュエーション。昨日のハードだった行程はもう忘れ見入ってしまう。好天で山行日和なのだが、3日目でもあり少々疲れも溜ってきているのでメンバーで相談し、農鳥岳には登らずゆっくり北岳を目指す事とした。間ノ岳からは昨日歩いた塩見岳からの稜線が見え、北岳では 360 度の大自然の大パノラマの眺望を楽しむ。南アルプスの山々はもちろん、北アルプスの槍ヶ岳、穂高岳、乗鞍岳、御嶽山等眺めることが出来た。登山道は岩稜地帯なので気を付けながら歩き、日本で標高の 2 番、3 番の頂きを踏んだ。雄大な大自然に身を置き贅沢な山行となった。



雄大な大自然に身を置き贅沢な山行となった。  
(記：橋本紀子)

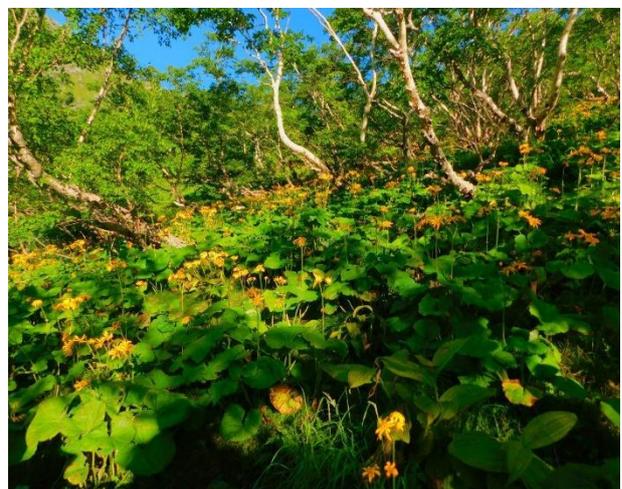


## 8月5日(木) 晴れ 北岳肩ノ小屋～広河原登山口へ

【3-夕仏】北岳肩ノ小屋(5:00)～右俣コース～大樺沢二俣(6:50)～白根御池小屋分岐(8:55)～  
広河原インフォメーションセンター(9:25)

下山は草スベリの道を通り広河原に下る計画だったが、分岐を見逃してしまい右俣コースをたどり下った。途中見渡す限りのマルバダケブキ(丸葉岳躑)の群生地が広がり心も和む。このコースは谷を下るが2019年19号の台風の影響なのか沢が大きく崩落しているところがあったが、登山道はよく整備され歩きやすかった。

広河原インフォメーションに到着した時は無事長い縦走路を踏破出来たことに安堵し、全員でガッツポーズの記念撮影!! 4日間スケールの大きい眺望を楽しみ、南アルプスを思いっきり堪能し達成感を味わった山行が終了した。  
(記:橋本紀子)



**西大和つうしん**  
第 463 号 (2021 年 9・10 月号)  
2021 年 8 月 31 日発行

発行責任者 永井章夫  
編集責任者 杉森英二

奈良県勤労者山岳連盟 西大和山の会  
〒636-0003 奈良県北葛城郡王寺町久度 1-9-32  
窪田友男方  
TEL・FAX 0745-72-2876  
<https://nishiyamatoyama.sakura.ne.jp>